

みんなの願いは窓口無料 おすすめ会ニュース 11-12号

2017年5月30日(火)

発行：福祉医療給付制度の改善をすすめる会

<http://www.medical-post.net/fukushi/>

(長野市高田中村276-8：長野県社保協内)

5/28 おすすめ会総会開催(40名参加) 運動の画期的成果を確信に、更なる制度の拡 充をめざして奮闘しよう!



5月28日(日)福祉医療給付の改善をすすめる会の年次総会が開かれ加盟団体などから40名の方が参加しました。総会では前半おすすめ会の会長で健和会病院副院長・小児科医の和田浩医師から「貧困問題から窓口無料化を考える」と題して講演があり、後半、年次総会が開かれました。

総会で湯浅事務局長は、特に年末の情勢の急展開を受け展開してきた県への請願書の運動や、市町村議会への働きかけで55市町村が県への意見書を採択するなどの経過を報告。

こうした私たちの運動の成果が県の決定に影響を与えたこと、また窓口完全無料化を求めた当事者自身の「声」がこの運動の原動力になったことが強調されました。

2017年度の活動では医療費現物給付化が次年度8月実施という状況の下、①県当局に対し6月6日に署名を提出し、「受給者負担徴収の廃止」「障がい者への拡大」等を求める。②県下の市町村に対して、助成対象者、受給者負担等について県水準を上回る拡充を求める等の方針が提案されました。提案後、各団体からこの間の取り組みなどが報告され活動の交流が行われました。

議案はすべて拍手で承認され、新年度の活動方針、決算・予算、新役員体制が確認されました(下表参照)

5年間事務局長を務めた湯浅健夫さんが退任し、新しく原健さんが事務局長に就任しました。両氏からそれぞれ退任、新任の挨拶がありました。

尚、総会には日本共産党県会議員藤岡義英氏から激励のあいさつをいただきました。



(来賓挨拶の藤岡義英県議)

<総会で選出された2017年度役員名簿> 1年間よろしくお願ひします。

会 長：和田 浩(民医連・健和会病院副院長・小児科医師)

副 会 長：原 金二(県推協・副会長)

鈴木 信光(保険医協会・会長)

田 淵 すみ子(難病連・事務局次長)

高橋 夏美(新婦人県本部・事務局次長)

村田 洋一(民医連・県民運動まちづくり部員)

事務局 長：原 健(長野県社保協・事務局長)

事務局次長：竹田 憲子(県推協・事務局長)、宮澤 淳司(保険医協会・事務局長)

川北 邦雄(民医連・事務局課長)

監 査：傳田 泉(県医労連)

<注* 下線の方が新任の役員>

県知事要請署名 25,388 筆(5/25)、事務局に集約を!

2017 年度すすめる会総会 講演会

貧困問題から窓口無料を考える

講師：和田浩医師 (健和会病院副院長・小児科医師)

講演で和田医師は、上昇し続ける日本の子どもの貧困率と、貧困がもたらす子どもの心やからだへの影響について解説。統計をもとに、貧困が学力や健康状態にも悪影響を与え、家庭内での虐待要因になるなどを紹介しました。

その上で、長野県が医療費窓口負担について、県が中学卒業まで所得制限なしに現物給付としたことは大きな前進と評価しました。しかしレセプト1件当500円の自己負担金については、「行政には500円くらいは払えるのではとの意見があるかもしれないが、500円が払えない家庭は決して少なくない。

この窓口負担が貧困層を医療から遠ざけることになる」と指摘しました。そして日々の診察で出会う経済的な困難事例を具体的に紹介し、「虫歯なのに歯科に行けず授業中に泣く子がいた」(佐久穂町)など、会に寄せられた多くの切実な声を「行政に生の声として把握してもらうことが大切」と語りました。

和田医師は更に、長野県の生活保護捕捉率は全国で46番目と低く、県下では1割の子どもが生保基準以下の収入にもかかわらず生活保護を受けていない実態があることを紹介。こうした実情からも「長野県が窓口完全無料とすることは特に必要性が高い」と強調しました。

また、「コンビニ受診が増える」との意見には、中学まで完全窓口無料を実施している群馬県のデータを示し、無料化後に時間外受診は逆に減少しており、無料化が安易な受診に必ずしもつながらないと指摘。群馬県では完全無料化したことで子どもの虫歯の処置完了率も全国と比べて高いことなど、自己負担のない安心感が治療の向上に結びついていると語りました。

現在県下では全市町村が中学校卒業まで、そのうち65%の50市町村が高校卒業またはそれ以上を対象に福祉医療給付を実施しています。民医連調査では、県下には高校卒業までの給付を望む声が約4割あるとの結果が紹介されました。



和田医師は最後に「1件500円の自己負担金はたとえ払えたとしても大きな負担になります。障がい者も窓口無料が必要です。一刻も早い窓口の完全無料を求めていきましょう」とあらためて強調しました。

参加者からは「貧困の実態などをよく理解していなかったが話を聴いて改めて理解できた。完全無料化を早く実現させたい」「データに基づく分りやすいお話だった。早期実現を希望する」「窓口負担が貧困層を医療から遠ざけると聞いて、あらためて納得した。完全無料めざして継続して取り組む」などの感想がありました。



ハガキ署名に寄せられた「声」400通超える！

- ・母子家庭で生活が苦しいです。子どもはいつ何時ケガをするか病気になるかわかりません。ケガはするときは何回もします。
- ・学校の事務職員をしています。保健の先生が「お医者さんに連れて行ってください」と言ってもお金がないため連れていけない状況を目にするととても悲しいです。今医療費はとても高く一時的にせよ支払うのが大変な家庭があります。ぜひ窓口完全無料化をお願いします。
- ・1000円のお金がなくてその日の食事にも困っている家庭があります。これでは窓口での支払はできないので医療機関に受診できません。一刻も早く完全無料にしてください。